

グラウンドワークとは.....

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。  
 (文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)

## 東日本大震災支援活動 (関連記事P2参照)

### 「子どもを元気に！ 富士山プロジェクト」

3月11日、東北地方太平洋沖で発生した未曾有の大地震と巨大な津波によって多くの命が奪われ、家や家族を失った被災者は数えきれない。さらには福島原発の事故による放射能漏れなど、日本の災害史上類をみない甚大な被害を引き起こしている。多くの被災された方々の精神的、肉体的負担も多大なものになっている。

そこで、NPO法人GW三島では、被災児童をはじめ被災家族の「心のケア」を支援しようと「子どもを元気に！ 富士山プロジェクト」を立ち上げた。三島市や伊豆地域を中心に、市民、NPO、企業、行政が協働体制で、被災地から短期、中期、長期にわたり被災児童、被災家族の受け入れ等をしていこうというものである。

## 募金活動・継続中!



女優の藤田弓子さん(右から2人目)や、2011ミス・ユニバース・ファイナリストで三島市出身の高田知美さん(左)も協力

## Ⅲ期グラウンドワーク・インターンシップ開始

Ⅲ期の集合研修はA～G日程まであり、各200人ずつの合計1,400人の参加を予定している。7月16日からA日程が開始されたが、今回、A、F、Gは伊豆の国市での開催で、B～Eは従来どおり日本大学での開催となる。「先進的な現場モデルや実践事例を学び、元気なNPOや地域ビジネスを立ち上げませんか？」の呼び掛けに、東日本大震災の被災地を含む全国から研修生が集まり、A日程では暑さの中、富士山も姿を見せ、熱心に研修し交流を深め合っていた。



GW三島渡辺豊博事務局長の講義 「みどり野ふれあいの園」ヘンショウ氏の講義 源兵衛川で体験学習

パブリックリソースセンターの鷹野秀征理事に質問中!



「あやめ会館」でA日程の受付準備OK!



笑顔で名刺交換の交流会



ワークショップで岸本幸子ファシリテーターも経験豊富な助言を!



「毎では、まだ1年生なんです」と語る相馬市からの齋川一朗さん

被災地の福島県相馬市からは、観光苺農園視察で伊豆とも交流があったという齋川一朗さんが、復興の願いが込められたロゴ入りポロシャツを着て数人と参加。「相馬野馬追いにも、是非来てください」とPR。宮崎県からの参加者は「懐かしい風景にこそ、未来がある」という言葉が好きだそうで、それに因んで練ったプランに、別の被災した農家の人がアドバイス。1日かけてのワークショップは、それでも時間が足りないほどだった。反省会では、ヘンショウさんが、来年のGW三島設立20周年記念事業について、早くも提案を!

## 平成23年度通常総会開催

6月12日、Via701にて、多くの来賓ご臨席のもと、平成23年度通常総会が開催され、平成22年度の活動報告、会計報告、および平成23年度の活動計画、会計予算が承認された。



その後、「レストラン JUN」にて懇親会が開かれ、豊岡武士三島市長も挨拶に駆けつけた。また、東日本大震災支援活動で行われるアトラクション等も紹介され、参加者が親交を深めた。

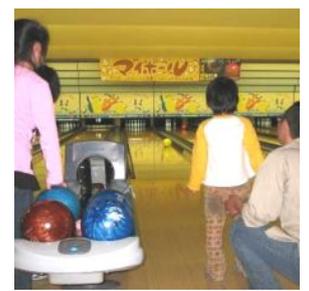
# GW三島の「東日本大震災支援活動 子どもを元気に！富士山プロジェクト」

～東日本大震災の被災地からのみなさんと、ともに過ごして～



春から夏へ、三島や伊豆を訪れ、避難所生活（宮城県石巻市、福島県いわき市）の疲れを吹き飛ばす避難所の子どもたち。「サワガニも掴めたよ！」「みしまプラザホテルのランチ、ありがとう！」

## JA伊豆の国江間いちご狩りセンター



GW三島では3/14に第1回緊急合同会議を開き、3/22の第2回緊急合同会議で東日本災害支援活動を策定した。この活動を支える資金として、先にGW三島が受賞した「地域再生大賞の副賞100万円」を充て、さらに多くの協力で街頭募金を続けている。これまで「街頭募金」に立ったのは延べ189人で、3/24～4/24（第1回～22回）、JR三島駅南口・北口、三嶋大社前、沼津仲見世商店街にて行った。募金者からの声の応援も、東日本災害支援に反映されている。

また、GW三島主催の「心を元気にするショートツアー」の来訪者は延べ318人で、4/15～7/31（第1回～6回）に、宮城県石巻市、福島県いわき市、同県川俣町から、三島市、伊豆の国市、伊豆市を訪れ大好評だった。GW三島のインストラクター等を中心に対応し、今後も長く続ける予定である。

「被災地の調査と支援物資の提供や炊き出し」に出向いたのは延べ11人で、4/1（第1回・宮城県石巻市、福島県の郡山市、伊達市、田村市、いわき市）と、4/6（第2回・宮城県石巻市、福島県いわき市）で行われ、支援活動の方向が見えた。最近では、「大学生出前寺子屋教室」（下の写真3枚）を、6/17（第1回）、6/24（第2回）に、宮城県石巻市、福島県いわき市で開催し、参加の大学生たちは延べ102人にのぼった。



第2回「大学生出前寺子屋教室」では、「心を元気にするショートツアー」で三島市等にきた子どもたちと久々の再会となりました。

地域の集会所を借り、小学生と中学生で会場をわけて実施。正座をして学ぶという、まさに心が通う「寺子屋」スタイルでした。

## 「腰切不動尊」全面改修後、初の例大祭

三島市南本町にある「腰切不動尊」で、5月28日、大祭が開かれた。1月に行った祠などの全面改装後、初めて迎えた大祭は、地元の「田町砂切保存会」の児童たちが、威勢のいいシャギリを披露し盛り上げた。

小雨が降る中、僧侶が読経し参列者が1人ずつ焼香した。改修は、「遊水匠の会」が手掛け、大祭運営は、例年どおり日本大学国際協力部の学生やGW三島が担った。

右写真は、日大生手作りの「サンドイッチマン」で遊ぶ児童たち



そこここ、水車の音が聞こえていた



三島市芝本町に在住 <sup>ながの</sup> 長野 <sup>としお</sup> 利男さん



幼少の頃自宅水車の前で  
海軍のおじさんと

い」と言われていたようで、三島の川にたくさんいたうなぎも食卓へ上ることはなかった。いつの頃の話か定かではないが、薩摩兵がうなぎを捕って食べ、とてもおいしいというので、以来、三島の人々もうなぎを食べるようになったのだという。今では、三島のうなぎは全国的な知名度を

その昔は「うなぎを食べると子どもに髪の毛が生えてこない」と

得ているが、かつては忌み嫌われていた時代もあったという。

夏の桜川は子どもたちの声が響き、水車が回り、人々の伸びやかな生活の場所だった。豊富な湧水が見られる年には、長野さんの胸に当時懐かしくよみがえるのではないだろうか。



浅間神社の入り口にある池の右手奥  
大きなコンクリート製タンク前の  
ライオンの蛇口には明治30年とある

かつて、浅間神社の鳥居手前にある池には1年中水があった。この水が桜川へも流れ、多くの水車を回し、白滝公園につながる「搗屋（つきや）の道」の名前の由来となった。浅間神社の池の中には石の栓があり、その蓋を開けると、もう一筋の水路が現れる。「三島街中カフェ」の前を通っている水路がそれだ。

生家はこの水路の水車で米を搗くことを生業としていた。水車は白滝公園の「めぐみの子」のあたりと、そこから数m下がった公園内にもあったという。夏になると水が蓄えられるその場に今でも残っている石組みは、水車が水と一緒に砂を巻き上げないように敷き詰められたものだとか。また、「三島街中カフェ」のすぐ横の小さな水路にも、水車の車軸を支えていた石が残っている。

そこここ聞こえる水車の音はまさに生活の音。みな米を搗いてもらいに来ていた。昔は、水車を利用しての搗屋がほとんどで、桜川沿いだけで10軒ほどあったという。多くがその後米屋として残っていったが、今ではほとんどが姿を消した。自宅は現在、道路を挟んで反対側に移動している。



大正7年頃（右・昔の長野米店、）  
どちらの写真も、正面が浅間神社  
上と同じ場所の現在（右・白滝公園、左・三島街中カフェ）





## コッツウォルズ イギリス中部にある自然美の素晴らしい地域

GW三島シニア・アドバイザー ロビン・ヘンショウ



私は英国のいろいろな場所を訪れその風景や野生生物を見、ハイキングして様々な建造物や歴史のある町や村を訪ねて楽しんでます。その美しさと多様性に魅せられて再度訪れたいと思う地域が、コッツウォルズと呼ばれるイギリス中部の高地です。

そこはライムストーン（石灰岩）の急斜面です。北東部から南西部にかけ尾根を形作るように高くそびえ、西側は急斜面で東側はもう少しゆるやかな斜面になっています。しかし尾根の高さがたった330mしかない湖水地方のようなドラマチックな風景はありません。コッツウォルズは2,000 km<sup>2</sup>以上もある地域で、西から東へ40 km、北から南へは145 kmも延びています。東部に近い町には有名なオックスフォードがあり、西部にはグロスター、バース、ブリストル等の古い町があります。

コッツウォルズは耕作地と放牧地が交りあった地域です。中世期には、高地で放牧されていた羊が巨大な富をもたらしました。それは現在、素晴らしい家や教会のある魅力的な小さな町や村に反映されています。ボートン・オン・ザ・ウォーター、ロウアー・スローター、ブロードウェイ等です。それらの居住地は、訪れる人たちが羨ましく思うジュラ紀の金色のライムストーンを使って建てられています。

その地域には小道がたくさんあり、「歩行者優先」の標識は、野生動物や花いっぱい地域を散策するのに最適です。これらの小道を通して村中を歩くことも可能です。そしてコッツウォルズの端から特別な小道、166 kmも続く自然道の「コッツウォルズ・ウェイ」まで歩くこともできます。

その地域は、伝統的イギリス風景で満ち溢れています。草を食む動物たち、魅力的な森林地帯、特にコッツウォルズの尾根から続く深い谷間、素晴らしい庭付きの城やどっしりとした家々、緑の多い村に整然と並んだ田舎家や古い大きな教会、谷間を流れる小川、その中にはテムズ川の源流もあるのですが、水車のある粉ひき小屋や釣り堀などなど、挙げればきりがありません。

非常に複雑な地勢のために、英国諸島の風景は信じられないくらい変化に富んでいます。それに加え何千年の間その土地を「文化的景観」に形造ろうとしてきたことが、限りない景色の多様性を生み出したのです。厳しい計画立案法案は、英国中にその景観の保護を徹底させてきたのです。しかし過去60年間以上、土地への圧力

は大きくなるばかりでしたが。

幸運にも1949年、素晴らしい法律（国立公園と地方条例へのアクセス）が大抵の景観を保護するようになり、現在10ある国立公園と「自然美の素晴らしい地域」（AONB）を造り出しました。現在コッツウォルズAONBを含め、イギリスには35のAONBがあります。

一般に国立公園はAONBよりはずっと大きいのですが、コッツウォルズのAONBは、湖水地方に次ぐイギリスで2番目に大きい保護区になっています。その大きな違いは、国立公園は山や原野の広々とした地域ですが、コッツウォルズのようなAONBは主に生産性のある農業地帯であることです。政府は国立公園もAONBも共に保護されるべきだと確信しています。国立公園が1950年からその委員会を持っているように、AONBもその景観と娯楽施設とが調和するように2000年に管理局を持つようになりました。

新しいコッツウォルズ保護委員会は、コッツウォルズを含む15の地方公共機関の代表と共に景観に責任をもつ政府組織と一緒にになりました。スタッフは指名され、ボランティア・プログラムが発展しました。1968年から「コッツウォルズ・ボランティア・レンジャー」サービスがありますが、今では350人以上の活動的ボランティア団体になっています。

AONBのそれぞれは、その地域の自然美を保護し高めることと、その土地の特質を理解し、そこを楽しめる場所にしていくという2つの目的を持っています。コッツウォルズでは元来の管理計画20年構想を元に3年間の事業計画を立て、その費用はおよそ500万円になっています。その大部分はNatural Englandを通して政府からくるでしょう。加えて地方の公共機関も貢献し、その組織は容認と貢献に適応するプログラムになります。委員会は21人の幹部を含め37人のメンバーで構成されています。事業プランの優先権を指示する4つのワーキング・グループがあります。(a) 生活と仕事（計画と輸送）(b) 保護と管理（土地管理）(c) 享受と感謝（報道と配慮）(d) 保証（地主や利用グループに与えられる）

今年早く、GW三島からのメンバーをコッツウォルズに案内できたことを大変嬉しく思っています。以下は、そのメンバーたちと訪れたイギリスの美しい風景の写真です。（集合写真は、前号43号P2に掲載済み）



ボートン・オン・ザ・ウォーター



17世紀の家があるロウアー・スローターのリバー・アイ



ロウアー・スローターにある200年前のトウモロコシの粉ひき場



ロウアー・スローター



コッツウォルズ尾根の羊。500年前の羊は、コッツウォルズに繁栄をもたらした。



コッツウォルズ・ウェイにあるブロードウェイ塔。景観以外には特別な意味のない“馬鹿げた建築”と呼ばれる建物で、1800年前に建てられた。



ナショナル・トラストがコッツウォルズに持つ莫大な資産と土地



ブロードウェイ塔の近くのコッツウォルズ・ウェイ



コッツウォルズの風景で、草を食む牛



ブロードウェイは、コッツウォルズの中で、大きな村の1つ

わたなべ しのぶ  
渡辺 忍さん**源兵衛川で「そよ風学習」**

中国東北部（旧満州）生まれ。生後 6 カ月で引き揚げ、沼津で育つ。函南町に 24 年住み、8 年前に三島市錦が丘を終のすみかとする。

退職を機に、GW三島の富士山湧水インストラクター養成講座に応募。以来、無理をせず出来る範囲で活動に参加している。多くの人たちとの体験を通じ、得るものが多い。

日本の川の中でも源兵衛川ほど見事に再生した川はないのではないかと。詳しく調べることで、どうしたら川が壊れ、どうすれば生き返るかがよくわかり、子どもたちの環境教育の教材としてすばらしい。現在GW三島が実施している「そよかぜ学習」は時間が限られているので、事前に出前学習を行い、体験後に学校でまとめ学習を行えば、より学習効果が上がるのではないかと思う。

趣味は、退職後始めた木版画。「玉沢 昭光門」「桜の大社」など、『渡辺版 三島八景シリーズ』に挑戦中。

みやざわ いたる  
宮澤 達さん**平凡で元気に生きたい！**

雪祭り発祥の地、織物の町でもある新潟県十日町市生まれ。三島商工会議所を退職後、夢とロマンを求め、第 2 東名建設に伴う遺跡発掘調査に 10 年関わった。

その後GW三島のリバー・インストラクター養成講座に応募し、GW三島のインストラクターとなる。最近では活動を通じ、ジャガイモやそば作りに関わり、賞味することの喜びを感じている。特に、年越しそばは家族に大好評。

源兵衛川を今後も守り続け、アブラハヤや絶滅危惧種のホトケドジョウが目の前をゆうゆうと泳ぎ、カワニナがたくさんいる川づくりを期待している。

現在はグラウンドゴルフに熱中。大会で優勝経験を持つ。31 年の弓道歴を始め、テニス、剣道とスポーツはなんでもこなせる。今、バルーンアートにも興味があり、GW三島の事業の癒し部分で役に立てればと思う。

平凡で元気に生きたい。

**パッション No.10****世界中の人々と実践！身近な環境改善メッセ〜ジ**

グローバル文化交流協会（G I A）は、地球的な広い視野に立ち、国や民族、年齢、宗教、性別などあらゆる壁を超え、地域に根差した様々な活動（文化交流・地球環境保護・福祉など）を通して相互理解を深め、地球人として成長することを目指している会です。

GW三島との関わりは当初からで、地球環境改善を目指しG I A会員が得意分野の力を発揮して制作したオリジナル作品『バイリンガル環境かるた』が、GW三島の目的に合致したためです。

1986 年設立のG I Aは会員約 150 名で、今年 26 年目を迎えました。



「放課後児童クラブ」で『バイリンガル環境かるた』体験

グローバル文化交流協会会長 福井 善徳

**キヤンMJ(マーケティング・ジャパン)グループ協働シリーズ**

～未来につなぐ、ふるさとプロジェクト～



7月2日 自然体験プログラム（左の写真）

東京都内の小学生親子 25 人を対象に、加須屋 真さんを講師に迎えた楽寿園の森での昆虫観察や、源兵衛川での生き物観察、インストラクターの説明案内による源兵衛川ウオークと“ちゃんかけ拾い”を体験。

生き物探しでは最初、タモ網の使い方に苦労していたが、次第に慣れた様子で水辺の草むらに挑戦。参加者のほとんどが初めての三島来訪で、「駅前にこんな気軽に楽しめる自然があることに驚きました」「普段の東京の生活では体験できない」と、大喜びの一日となった。

7月3日 三島原風景再生プログラム（右の写真）

昨年 2 月末に、3 種類の馬鈴薯(キタアカリ、メイクイン、ダンシャク)の種芋を植付けた箱根西麓の畑で、30 人の参加者が収穫を行った。

「自分で植えた芋の成長を確認しに来ました」という親子連れは、自分で収穫したたくさんの馬鈴薯のお土産にご満悦。

体験後、三島農村カフェの大家さん提供の野菜を使って、ボランティアが作ったカレーを皆で食べ、収穫の喜びを味わった。



## GW三島 援農活動

耕作放棄地再生と人の心の再生を!!



完成した竹箒はご褒美に!

都市住民による援農活動は、耕作放棄地を活用した「三島そば」「三島大豆」の栽培による地域ブランドの創出や、放置竹林の竹材の活用を図り、子どもや少年、シニアなどの多様な世代と地域農業者が交流する新たな援農システムを構築。さらに更生保護団体などの青少年育成団体と連携、少年たちの心の再生を図り、誰もが自立して暮らすことの出来る地域社会づくりの一翼を担う「共助」の仕組みづくりを目指している。

活動については、GW三島ホームページから「みしまふるさと援農ネット」のコーナーで『農日記 笑顔の種をまきましょう』として紹介。GW三島農業アドバイザーの杉山 光良さんと、GW三島事務局の大川 保さん（実務・ブログ担当）が、山の畑（箱根西麓）・里の畑（御園）で、多くの協力のもと、作物の収穫の喜びを味わいながら援農活動にいそしんでいる。



山の畑で馬鈴薯掘り 里の畑で小麦収穫

## 鎮守の森探検隊

10年目を迎えた「鎮守の森探検隊」、今年のテーマは「自然と遊び、学んで、発見! 地球の不思議と素晴らしさ」だ。身近な三島市内から、さらに富士山、伊豆地域へと広範囲にわたり自然の一体性や多様性を体験できるプログラム（全9回）が企画されている。昆虫や植物の先生と一緒に自然観察会、カヤックや帆船、ツリークライミングなどの自然体験も予定されている。

7月 10日 「富士山のブナ林に潜む生き物たちの観察会」	富士宮市・西臼塚
7月 30日 「光を灯して、夜の虫の観察会」	三島市・山田川
8月 6日 「冒険しよう! カヤックに乗って狩野川下り」	伊豆の国市・狩野川
8月 12日 「調べてみよう! 川のきれい度と川虫の観察」	三島市・源兵衛川
8月 21日 「風を感じて、海から観察! 地球の歴史と雄大さ」	沼津市・駿河湾
9月 3日 「魚つき林を探検! 海と森の不思議な関係」	真鶴町・三ツ石海岸
10月 16日 「ふるさとの宝物・鎮守の森に育つ昆虫と植物の観察会」	三島市・三嶋大社
11月 6日 「五感を使って、森と友達になろう!」	伊豆市・天城遊遊の森
1月 21日 「富士山・伊豆地域 子ども探検隊発表会」	三島市・楽寿園/Via701



富士山のブナ林で観察会



第1回は7月10日「富士山のブナ林に潜む生き物たちの観察会」が富士宮市・西臼塚（標高1,200m）で開かれた。バスを降りるとエゾハルゼミ（高冷地に分布）の鳴き声に迎えられた。ウツギやヤマボウシ、バイケイソウが咲き、オレンジ色のモミジイチゴも発見、ちょっとしたおやつになった。富士常葉大学加須屋 真非常勤講師より、「木材生産」や「水の供給」「生き物のすみか」など森が持つ様々な役割について教えてもらった。実際に森を歩くと、樹皮にはたくさんのコケが見られ、様々な昆虫や植物も見つけられた。（参加者25人）

## 「三島街中カフェ」会議室に、「洗心亭」「笑福亭」オープン

7月15日、関係者約20名が集い、コミュニティで悩みや不安を抱える人々に、少しでもそれらを和らげ解消できることを目指すリフレッシュ街中コミュニティサロン「洗心亭」「笑福亭」が開所された。小浜修一郎GW三島評議員から趣旨説明があり、テープカットの後、関係者からは「洗心亭」等への期待の声が寄せられた。



テープカット（上）とお茶で乾杯!

- ◆高齢者身上萬相談室の「洗心亭」は、毎週金曜日 10時～15時
- ◆健笑楽一服亭の「笑福亭」は、月曜日～木曜日 10時～15時を予定している。
- ◆事務局：GW三島
- ◆協働：遊水匠の会&幼老生き生きねっと支援隊 広小路クリニック  
家族会・ほほえみの会 パルシステム静岡 ほか

「三島街中カフェ」会議室では、このほか季節ごとに7～8回シリーズで、人気の「ワンコイン・パソコン講座」（水）を実施している。自分のノートパソコンを持参し、西川勝美講師の丁寧な指導に多くが継続受講。次回は10月6日から開講。



また、日曜日には、月に1～2回、「ワンコイン健康ま〜じゃんサロン」も開催され、三島市はもとより、他市町からの参加者もあり、世代を超えての交流で楽しいひとときを過ごしている。



## シェークスピアが惚れた「麗しのヴェローナ」



シェークスピアの「ロミオとジュリエット」の出だしは、序詞役の「舞台も“花のヴェローナ”にて、いずれ劣らぬ名門の、両家からむ・・・」で始まっている。

“花のヴェローナ”は、原文では“*In fair Verona*”で、たった一言ヴェローナに冠しているだけだが、無垢で激しい恋人たちの悲劇の舞台として、いかにも美しい、魅力的な街を髣髴させる表現になっている。

実際、このヴェローナは、イタリアーのロンバルディア平原の北部にあって、遠く古代ローマの時代から、農業の集散地として栄え、一方では、東のヴェネツィアと西のミラノ、また中部イタリアとドイツ、オーストリアの十字路になっていて、商工業の中心都市としても栄えてきた歴史を持つ。



ヴェローナの君主 デッカ・スカラ家が14世紀に建てたレンガ作りの古城

しかし、そうした交通の要衝であるからこそ、ヴェローナには、ローマ教皇や、神聖ローマ帝国や、ミラノ公国、それにフィレンツェやヴェネツィア共和国等々が、版図に組み入れようと必死に覇を競い合い、それに呼応した貴族たちの熾烈な闘争や確執が



ヴェローナにある「ジュリエットの家」のバルコニー



あったと想像される。

そうしたヴェローナの貴族たちの宿怨が、シェークスピアの「ロミオとジュリエット」の背景にあることは間違いないが、数々の歴史や物語をひっくるめにして、現在この市街地は、「世界遺産」となっている。

中でも一番の人気スポットは、やはり、物語のモデルとされている「ジュリエットの家」で、庭に置かれたジュリエット像や、「おゝロミオ様！」と呼びかけたバルコニーには、観光客が引きも切らない。

そもそも、この像は、シェークスピア自身が、物語の最後のシーンで、登場人物に「私はお嬢様の像を、純金で建立いたします。そしてこのヴェローナの市(まち)が、その名によって続くかぎり、貞節無比、ジュリエット姫のそれほど、世に仰がれる像はないという、そういうものを作りたいと思うのです」と言わせているのだ。

そうしてみると、「花のヴェローナ」から始まるシェークスピアの思い出は、「いつかヴェローナを世界遺産に」と、——まさか、そこまで予測していたとは考えられないが・・・。



中庭にあるジュリエットの像

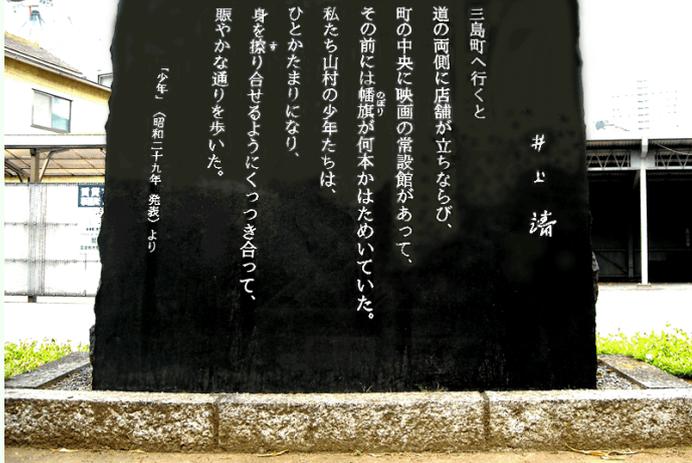
## 過ぎゆく三島 いつまでも その7

伊豆の風土に育まれた 井上 靖 の文学

井上 靖 (明治40年～平成3年、1907～1991) 作家、詩人。陸軍軍医の父の赴任地旭川で生まれ、1歳の時、母と共に伊豆湯ヶ島の井上家に移り、幼少時代は穏やかな伊豆、中学時代は三島・沼津でのびのびと過ごした。靖が静岡県立旧制沼津中学4年生の時下宿したのは、父方の叔母の家・三嶋大社鳥居の斜め前にある間宮家だ。

富士山に見守られた山間の豊かな自然の中で人々の優しさに触れ成長していった魂は、彼の小説の原点と言えるかもしれない。少年の頃、若い先生に教わった『克己』という言葉が彼は大切にしていた。

この文学碑の近くに住んでいる井上 靖の姪・藤池 都子 (みやこ) さんに思い出話を伺った。都子さんの母親は、靖の3つ違いの妹で、生前、「兄とは言い争いをしたこともなく、殴られたこともない。本当に優しい人だった」とよく話していたそうだ。「ほかの人が幸福でなくて、どうして自分が幸福になれるだろう」という靖の優しい思いにつながる。



晩年の彼は、大病後にもかかわらず長編小説『孔子』を執筆。都子さんが訪れた時、書齋にうず高く積まれた参考資料に身を置くだけでは足りず、広い書棚からさらに文献を取り出し筆を運ぶその気迫に、優しい伯父ではなく小説家の真髄を見た思いだった。

井上 靖は、74編の長編小説、270編の短編小説、462編の詩を残し、再三ノーベル文学賞候補にもなった。「その時の気分で使い分ける」というたくさんの万年筆。それらの万年筆から彼の多くの作品が生み出されたのだ。なお、自伝的小説を基にした映画『わが母の記』が、つい先頃完成し、来年の公開が待たれる。映画監督の原田真人は沼津東高出身で、井上 靖の後輩である。

ご寄付を

ありがとうございます。

「子どもを元気に!

富士山プロジェクト」のために

\*「この祭り、乱れ咲き8th」実行

委員会様 165,263円

\*グローバル文化交流協会様

112,000円

\*フジコー様 300,000円

\*募金:個人と企業134人・団体

協賛と協力:134団体・企業

支援物資:38人・団体より提供

松毛川千年の森づくりのために

\*八木繊維様 41,940円

三島市内の写真集

過ぎゆく三島を未来に残すために、あなたが撮った三島市内の風景や風物写真を随時募集しています。GW三島の印刷物に使わせていただくこともあります。

【投稿方法】

撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日、一言添え、Eメールに添付してGW三島事務局までお寄せください。Eメール: info@gwmishima.jp

染色家・沖島良美さんの作品「三島の四季」



三嶋大社の桜



源兵衛川のせせらぎ



日大通りの銀杏並木



富士山を望む三島大根干し

GW三島活動記録 2011年3月1日-2011年7月31日

月	日	曜日	事業名	内容	場所	人数
3	4	金	第1回地域再生大賞受賞報告 Ⅱ期GWI(3/4~8)	静岡県知事・副知事へ 集合研修C日程	静岡県庁 日本大学国際関係学部	8 195
3	5	土	鎮守の森GPR 馬鈴薯栽培	植林活動、自然観察会 種イモ植え付け	松毛川 箱根西麓	65 70
3	6	日	第1回地域再生大賞	大賞受賞祝賀会	みしまプラザホテル	100
3	13	日	鎮守の森GPR	水辺生物観察会	松毛川	20
3	14	月	第1回緊急合同会議	東日本大震災支援活動	事務局2階会議室	23
3	16	水	Ⅱ期GWI(3/16~20)	集合研修D日程	日本大学国際関係学部	239
3	17	木	馬鈴薯栽培 鎮守の森GPR	種イモ植え付け 植林活動、自然観察会	箱根西麓 松毛川	65 23
3	22	火	三島街中カフェにぎわいづくり 第2回緊急合同会議	紙芝居上映 東日本大震災支援活動の策定	三島街中カフェ 事務局2階会議室	15 18
3	26	土	源兵衛川生物多様性保全	源兵衛川ワンデイチャレンジ	源兵衛川	25
4	3	日	みどり野ふれあいの園	15周年記念イベント	みどり野ふれあいの園	60
5	15	日	「この祭り、乱れ咲き8th」	チャリティーイベント運営、出店	三島商工会議所	8
5	28	土	腰切不動尊	腰切不動尊大祭	腰切不動尊	90
6	1	水	援農活動	麦栽培:草刈り	御園地区	6
6	9	木	援農活動	麦栽培:刈取り	御園地区	10
6	11	土	三島ホテルのつどい 竹あかりイベント	三島ほたるの集い運営補助 竹あかりイベント	楽寿園、源兵衛川 楽寿園駅前口	3 17
6	12	日	平成23年度通常総会	通常総会	Via701	75
6	17	金	視察研修(東京下町視察)	ス・ユニバース・ジャパン(MUJ)最終選考会	東京浅草	13
6	20	月	そよかぜ学習	東小学校3年生(ホテル)	東小学校	60
6	21	火	そよかぜ学習	西小学校3年生(源兵衛川校外学習)	源兵衛川	58
6	23	木	環境出前講座	中郷西中学校(三島市の環境)	中郷西中学校	100
6	26	日	トヨタ自動車労働組合	親子自然観察会	源兵衛川	120
6	30	木	そよかぜ学習	北小学校4年生(源兵衛川校外学習)	源兵衛川	112
7	1	金	そよかぜ学習	徳倉小学校4年生(源兵衛川校外学習)	源兵衛川	60
7	2	土	キャンノンMJ協働事業	親子自然観察会	楽寿園・源兵衛川	25
7	3	日	キャンノンMJ協働事業	馬鈴薯収穫	箱根西麓	30
7	5	火	そばづくり隊	そば打ち教室	三島街中カフェ	7
7	10	日	鎮守の森探検隊	①富士山のブナ林と生きもの観察会 そよかぜ学習	富士山麓 佐野小学校1年生(クワガタ・カブトの生態)	25 46
7	12	火	そよかぜ学習	南小学校4年生(源兵衛川再生物語)	南小学校	75
7	14	木	そよかぜ学習	北上小学校4年生(源兵衛川校外学習)	源兵衛川	55
7	15	金	そよかぜ学習	錦田小学校4年生(源兵衛川校外学習)	源兵衛川	128
7	16	土	Ⅲ期GWI(7/16~20)	集合研修A日程	伊豆長岡・三島市内	195
7	30	土	鎮守の森探検隊	②光を灯して夜の虫の観察会	山田川	40

視察来訪者記録 H23.3.1 ~ H23.7.31

月	日	団体名	人数	地域
3	4	キザイテック株式会社	13	愛知
3	11	水源地域交流の里づくり推進協議会	30	神奈川
5	9	明治大学非営利・公共経営研究所、 (株)公共経営・社会戦略研究所(公社研)	7	東京
6	3	NPO 浦安高齢者雇用促進センター	18	千葉
6	11	高倉ふるさとづくりの会	30	埼玉
6	19	三島地区BBS	15	静岡
6	20	小田原城木造普請の会(仮称)	6	神奈川
6	28	NPO法人 富士北麓まちづくりネットワーク	17	山梨
7	1	磐田市自治会連合会	34	静岡
7	10	用田自治会	30	神奈川
7	13	新生・公明クラブ	4	山形
7	18	NPO 未来クリエート21	40	静岡
7	21	NPO法人 福祉マンションをつくる会	10	東京

(定例作業)	
三島梅花藻の里	20回
鏡池ミニ公園	5回
桜川	5回
宮さんの川	毎日
源兵衛川	毎日
沢地グローバルガーデン	5回
(定例会)	
インストラクター会議	5回
スタッフ会議	1回
編集会議	9回
地域社会雇用創造事業	3回
三島街中カフェ	111日開店

GW三島事務局の新スタッフとインターン生



伊藤潤一、岩崎衣里子、河合孝彦、菅原 淳、祐川由実、祐川由実、毛利祥子、久保悟史、納谷佳臣

グローバル文化交流協会より贈呈



6月29日、みしまプラザホテルにて、グローバル文化交流協会(GIA)の総会が開催され、渡辺豊博GW三島事務局長が、「東日本大震災 子どもを元気に!富士山プロジェクト」と題してチャリティー講演。収益金は全額、福井善徳GIA会長より、GW三島に贈呈された。

GW三島視察中に東日本大震災の揺れ

3月11日、11:00~15:00の日程で、GW三島を視察に訪れていたのは、神奈川県政策局総務部土地水資源対策課が事務局を務める「水源地域交流の里づくり推進協議会」の一行(バス2台)。GW三島小松幸子理事と藤井正明インストラクター、山田昭子事務局スタッフが対応していた。三陸沖でM9.0の大地震が起きた14:46、一行はVia701で説明を聞いていた。突然、大きな船が揺れるような異様な地震(三島は震度4)。熱心な質問が続いたが、道路事情もあって帰路は数時間かかったとか。未曾有の大地震の時刻を共有した忘れられない視察と、翌日御礼メールが届いた。



※3月11日を境に、GW三島への視察は、しばらくキャンセルが続いた。

グラウンドワーク三島編集室

ボランティアニュース44号の編集ほか  
岸野和子 城所祖帝 小松幸子 斎藤彩子  
菅野京子 本田博子 前田充子 水野幾子  
村澤 圭 山崎多紀子 (50音順)  
(GW三島事務局担当:山田昭子)